



中野本郷

令和5年度 7月号
令和5年7月3日
中野区立中野本郷小学校
校長 福山 広伸
児童数 321名

「なぜだろう」と考えること

副校長

本格的な暑さを迎えました。グリーンガーデンの夏野菜が育ち、トマト、キュウリ、ナスが花や実をつけています。育ててきた野菜を収穫すると、子どもは満面の笑みで「これ、見て。」と小さな手で持った収穫物を見せてくれます。楽しいことや好きなことに意識が向かい「心のスイッチ」が入っている時だと感じます。東井義雄さんの詩「心のスイッチ」の一部を紹介します。

心のスイッチ

人間の目は ふしぎな目 見ようという心がなかったら 見えても 見えない
人間の耳は ふしぎな耳 聞こうという心がなかったら 聞いていても聞こえない
頭も そうだ はじめから よい頭 わるい頭の 区別が あるのではないようだ
「よし、やるぞ」と 心のスイッチが入ると 頭も 素晴らしいはたらきを始める
心のスイッチが 人間を つまらなくもし すばらしくも していく
電灯のスイッチが 家の中を明るくし 暗くもするように

本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心に、人にも自然にもやさしい児童の育成について研究を重ねています。年1回みのりの日として、学校公開日に関連授業を公開したり、その成果物を掲示したりします。6月の研究授業では5年生が、「わたしたちのまち再発見」の授業で、2021年、1956年(昭和)、1880年(明治)の本校周辺の地図を見比べ、同じところを、違うところを見つけて「なぜだろう」と考えました。神田川が令和と昭和は同じでも、明治にはなぜくねくねしているのだろう。通りの名前や地名が、ずっと同じものもあれば変わったものがあるのは、なぜだろう。青梅街道や鍋屋横丁への興味が高まっていました。比較しやすい資料の提示と身近な内容だったので、心のスイッチが入ったのです。「知りたい」「探求したい」と思える身近な学習課題を設定することで、自ら解決しようと学習活動に主体的に取り組みます。まさに頭が素晴らしい働きをし始めるのです。この学習を通して、実社会や実生活の課題を探究しながら、自己の生き方を考えていくための資質・能力が育成されていきます。

さあ、夏休みが間近になりました。子どもが普段できない体験に挑戦できる期間です。自然に触れ、社会的な体験活動を通して、子どもは「なぜかな」と疑問をもち、探究的な見方・考え方を働かせます。分からないことを調べ、日常生活に生かしたり、新しい知識を得たりして課題を解決する力を身に付けてほしいものです。

7月の生活目標 「身の回りをきちんとしよう」「規則正しい生活をしよう」

◆身の回りをきちんとしよう

学習に必要な道具(筆箱、体育着袋、習字道具、絵の具セット等)が整っているか、日々、補充・点検を行うよう子どもたちに声をかけています。夏休みには、再度ご家庭でお子さんと一緒に持ち物の整理整頓等を行っていただくようお願いいたします。

◆規則正しい生活をしよう

普段の生活でも同じですが、特に夏休み中には心がけてほしいことです。起きる時間、寝る時間を決めて十分な睡眠をとること、朝ご飯をしっかりと食べることを大切し、体も心も元気に生活できるようにしましょう。

生活指導委員会

